

◆俯瞰メルマガ第 88 号◆

◆時候のご挨拶◆

早いもので田圃は地起こしされ、水が入っています。すぐに田植えです。水が張られた田圃は、生命力を感じさせます。小学校も中学校も、周囲はすべて水田でした。自然の中で四季を感じながら育ったことが、今の自分のどこかに埋め込まれていると思います。そして今は、どっぷりと東京の空気につかっています。そして 18 歳から住んでいる東京が、自分に合っていると思っています。

- 
- 揺れる、軋むヨーロッパ
  - 中国は鄧小平の韜光養晦に立ち返るのか
  - ファナックの工場見学に行ってきました
  - スマートシティモデルで拓く未来社会
  - 第 66 回俯瞰サロン(5 月度・計画中)
  - 俯瞰のクッキング “山菜の季節”
  - 俯瞰の書棚 “世界を変えた地図グーグルマップ誕生の軌跡”
  - 雑感・私感

-----

◆揺れる、軋むヨーロッパ◆

ヨーロッパは揺れ動き、不安定な状況になっています。その根本的な原因は、「移民」と「経済格差」に対する政策にあります。これをポピュリズムで煽る政党が、各国で勢力を伸ばしています。北欧のフィンランドでも、社会民主党（SDP）が得票率 17.7%で第 1 党となりましたが、第 2 党は反移民を掲げる右派のフィン人党で、得票率は 17.5%です。ほとんど得票率に差がありません。

そして各国の右派政党は反 EU で結集して、今月の欧州議会選挙で EU の主導権を握ろうとしています。彼らが躍進すれば EU は軋むことになります。

イタリアは、すでに右派政党が政権に参画していますが、経済政策で政権内で対立が起きています。もともと不安定なイタリアの政治ですが、独仏の懸念を押し切って「一帯一路」に G7 として参加しました。

フランスのノートルダム火災も思わぬ方向に展開しています。すぐに集まった巨額の寄付に対し「黄色いベスト」参加者は、経済格差を放置して貧困層に支援をしていないのに、大富豪が巨額の寄付金をしたことに反発しています。また大統領の強い再建の宣言にすら、反発しています。ここでも、経済格差と移民が運動の基盤にあります。

ウクライナの大統領選挙は、本人すら驚く結果です。国民が現政権に反旗を翻し、お笑い芸人のゼレンスキーを次期大統領に選びました。この後どうなるか、全く予断ができません。ロシアすら態度を決めかねているようです。

イギリスは、政治が制御不能の状態になってしまいました。先日行われた地方選挙では、二大政党の保守党と労働党が大きく後退し、メイ首相の政治生命も危ぶまれます。国民投票の再実施の可能性が高まりました。世論調査では EU 残留派の方がやや優勢ですから、結果としてブレグジットは、どんでん返しになるか、国会で保守党と労働党が苦渋の選択で、メイ首相の離脱案を承認するかもしれません。

とにかく EU は揺れ動き、軋んでいます。独仏は、ロシアと中国に対して警戒感を高めています。有効な国際政治を展開する力が弱まっています。

各国右派政党が反EUで結集 欧州議会選、もくろむ野望

<https://www.asahi.com/articles/ASM4P5K52M4PUHBI00R.html>

英統一地方選、2大政党とも苦戦 EU離脱混乱響く

<https://jp.reuters.com/article/gb-local-election-idJPKCN1S91FK>

ノートルダム火災、「黄色いベスト」参加者の悲しみはやがて怒りに

<https://newsphere.jp/national/20190501-1/>

イタリア、景気対策を閣議承認 連立政権の対立に注目集まる

<https://jp.reuters.com/article/italy-politics-idJPKCN1S01A2>

フィンランド総選挙 中道左派が勝利、政権交代へ

<https://www.cnn.co.jp/world/35135763.html>

ウクライナのゼレンスキー次期大統領につきまとう「一発屋」の不安

<https://globe.asahi.com/article/12316876>

#### ◆中国は鄧小平の韜光養晦に立ち返るのか◆

先日の「一帯一路」の会議は、日本を含む150カ国以上が参加し、37カ国が首脳級を派遣しました。パックスアメリカナに対抗する、国際社会における中国の力を改めて見せつけた感もあります。そして会議期間中に、中国企業が主体になって640億ドル（約7兆円）余りの事業協力を合意しました。

国際社会から厳しく批判されている「債務のワナ」についても、習近平国家主席は「国際ルールや標準を幅広く受け入れることを支持する」と発言して批判をかわそうとしていました。ただアメリカは「一帯一路」に強い懸念を持っており、今回の会議に参

加していません。そして「一带一路」は、世界各地に新たな軍事拠点を建設していくとみえています。すでにアフリカのジブチには基地を確保し、スリランカ、ギリシャに考案を確保し、イタリアでも港湾を確保しようとしています。

米中の貿易戦争の着地も依然として不透明です。ギリギリ最後の妥協点を探っていると思いますが、またまたトランプ大統領は、5月10日には25%の関税をかけるとドスを付きつけて交渉しています。

すでにアメリカの中国制裁は、中国経済に相当な影響を与えているようです。中国政府は減税などで企業救済を図っていますが、なんとしてもアメリカの制裁を解除して正常な経済関係を構築したいと考えているでしょうから、最後はかなり譲歩をするのではないのでしょうか。

結果として日本との関係改善も進んで、習近平国家主席はG20に合わせて日本を訪問するとのこと。これを機会に、かなりの日中関係の改善が進みそうです。最近尖閣列島のニュースもほとんどありません。

「一带一路」の推進は、中国経済の維持拡大のために必須の国家戦略とすれば、国際社会のルールに従う必要がありますから、中国が強引な強国路線から、鄧小平が説いた「韜光養晦（ようこうとうかい）」即ち、爪を隠し、才能を覆い隠し、時期を待つ、戦術に戻るかもしれません。

ただアメリカは、共和党も民主党も中国とは新冷戦という認識を共有していますから、国際的な緊張は続くでしょうが。

習近平「一带一路」大演説で再び見せた中華覇権確立への執念

<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/64400>

「一带一路」に突き進まねばならない中国の事情

<https://business.nikkei.com/atcl/gen/19/00002/043000319/>

「一带一路」の首脳会議が閉幕、640億ドル超規模の事業で合意

<https://jp.reuters.com/article/china-silkroad-xi-idJPKCN1S501M>

中国、「一带一路」で世界中に軍事基地建設へ 米国防総省報告書

<https://www.afpbb.com/articles/-/3223469>

米中貿易協議、30日に再開 追加関税の扱いが焦点

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO44345270Z20C19A4EA4000/>

焦点：対米貿易摩擦が直撃、中国メーカー「苦肉」の生き残り策

<https://jp.reuters.com/article/usa-trade-china-cantonfair-idJPKCN1S12HN>

習近平氏 6月に訪日意向 国家主席として初めて G20に合わせ

<https://mainichi.jp/articles/20190424/k00/00m/030/214000c>

◆ファナックの工場見学に行ってきました◆

忍野村にあるファナックの工場に行ってきました。何十年も前から一度見学したいと思っていましたが、なかなか機会がなく、やっと実現しました。特に見学を制限しているわけでは無いようですが、驚くことに、工場見学は会長と社長の承認が必要とのことで、今回もこの承認の下に実現したようです。

森の中に広く散在するファナックの工場と研究所の建物ですが、雰囲気はポートランドのナイキのキャンパスに似ていました。森の中ですから、運動施設や福利厚生施設が充実しています。既に敷地が満杯で周辺を買収しているとのことです。

すべての建物が黄色に染められているかと思いましたが、研究所は赤レンガ風の建築でした。本部棟は白でした。ただし、出されたおしぼりは黄色です。

ファナックの創業者の稲葉清右衛門さんは東大精密工学機械科の先輩にあたり、最初にお会いした時は富士通の部長でした。積極的に就職の勧誘をしていました。その後独立して、何人もの同級生や後輩がファナックに入社しました。ファナックの立ち上げに東大の精密工学機械科の人材は大きく貢献したと思います。

そして稲葉さんが発明したパルスモータという技術は、日本の工作機械業界のNC化に大きく貢献しました。送り機構にスライダとボールねじを付けた機械を用意すれば、ファナックの制御システムでNC工作機械が完成するわけです。当時のNC技術は稲葉さん、通産省機械研究所の研野さん、そしてOKIの岸さんがリーダーだったと記憶しています。岸さんはその後も長くファナックに勤務していたと聞いています。

当時聞いた話ですが、稲葉清右衛門さんは酒豪で有名で、稲葉虎右衛門と言うあだ名があり、ならば虎の黄色をコーポレートカラーにしよう、と決めたと聞きました。時効でしょうが、酒気帯び運転で橋に車をぶつけ、翌日部下に回収してくるように言ったという話もあります。また社内では、ハエ叩きを手に持っていたとも言われていました。社員全員がモーレツ社員で、午前1時に会議の招集がかかったとき、マネージャ全員社内をいたというエピソードも聞きました。なにしろ当時はたくさんの友人が社員でしたから情報は豊富でした。

工場見学に話を戻しますが、ロボットの部品加工や組み立てにロボットが多数投入され、ロボットでロボットを作るという話に近い所もありますが、ロボットが不得意な工程もたくさんあり、ここは人間が投入されていました。

今回の見学で1番印象に残ったのは、100 m × 300mの建屋の信頼性保証センターです。徹底した信頼性の試験がされていました。ここまでやっているのかと驚かされました。この信頼性保証センターを見学した顧客は、ファナックの品質を固く信じるでしょう。

最近日本の製造業は不祥事続きで、検査工程の手抜きやデータ偽装を起こしています。このセンターを見学して、心を入れ替える必要があると思います。品質保証なくして製造業はありません。

工場見学の印象をひとこと言えば「ファナックは世界最強の製造業である」です。ただあまりにもハードウェアに軸足を置いているので、いろいろ人工知能の応用技術を見せていただきましたが、これからのスマートファクトリーの世界についていけるか、という懸念も残りました。トヨタ自動車の競争相手が Google になったように、今のテクノロジーの世界に境界はなく、ある意味、戦国時代ですから。

#### ◆スマートシティモデルで拓く未来社会◆

日立製作所在職中から国際的にスマートシティのモデルを追及してきた、畏友の河野通長さんが「スマートシティモデルで拓く未来社会: まちづくりを超えて成長エンジンへと深化するスマートシティ」という本を Kindle で出版されたので、その内容を紹介します。

まず、“スマートシティとは単に空間的な都市のありようを超えて、住民が希求するライフスタイルの実現に向けてそこに横たわる課題を住民と共に解決し、そのサイクルを繰り返すことを通じて住民の生活の質を改善しつづけるエコシステムとして理解されている。”です。

スマートシティという言葉は、いろいろな視点で使われていて内容がいまいち正しく理解されていません。その理由の1つは複数の源流があるようです。

“初期のスマートシティブームにおいてアメリカやヨーロッパでは情報通信技術を活用した都市をスマートシティと呼ぶ考え方が支配的であった。この様に情報通信技術の利活用偏った観方のスマートシティがブーム初期の一つの源流であるとする、もう

一つの源流は地球環境に配慮した都市ということができよう。環境モデル都市は2014年までの間に合計23の都市が指定されたが、各都市が取組んだテーマは省エネルギー活動や再生可能エネルギーの活用などによる温室効果ガスの排出削減が中心となっていた。”

そして日本のスマートシティについては

“日本ではここ数年来「スマートシティ」という言葉は「死語である」とさえ言われてきたが、ここに来てにわかには復活している様に思われる。日本における「スマートシティ」の理解は、省エネ都市、再生可能エネルギーを活用した都市、あるいはエネルギー問題への注力が大きい都市というイメージが定着した様に思える。”

そして、スマートシティ推進モデルの構成として、

“行政（自治体）、市民（住民）、大学（地元の大学）、ならびに産業界の四者が連携するパートナーシップが立ち上がっているということである。この「四者体制」こそは、近年ヨーロッパにおいてオープンイノベーションの仕組みとして議論されている「クアドルプル・ヘリックス」そのものであり、都市の課題に取り組む仕組みとイノベーションの仕組みとが、ここで一致点を見出したのである。また、住民を含む四者連携の中で、イノベーションの成果のユーザとも言える住民との協創の場として「リビング・ラボラトリー」の考え方がオープンイノベーションを推進する仕組みとして注目を集めている。”

日本ではよく産学連携という構成モデルが標榜されますが、私の知る限りうまくいっているプロジェクトは、ほとんどありません。地域振興の国の補助金が産官学連携を前提に配布されます。地方自治体を中心となって産官学の組織を作りますが、もともと地域に対する熱い思いがない産や学のメンバーに入っても、実質が伴わず、補助金の終わりがプロジェクトの終わりになります。

とりわけ住民、市民が自分たちの地域を本気で活性化しようと思えばプロジェクトを企画し、それを行政や大学そして地元企業が協力することが必須ですが、なかなかこの形になりません。行政の役割として、

“市当局の役割はその都市の課題を見出す事、解決に向けた四者連携の仕組みを牽引すること、そして課題解決に必要なデータを公開することの三つが重要である。”とありますが、最近ではデータの公開は少しずつ進んでいます。

スマートシティモデルの要点として、

“スマートシティは都市という構造物にテクノロジーを実装して、その機能を高めたモノではなく、住民が希求するライフスタイルを実現するためのプロセスであり、そのために必要な仕組みを整備する活動であるという事である。またこの活動が都市の成長エンジンとなっているという点を強調したい。”

そして現在の日本政府の政策に対して、

“実装されるべき技術が先にあってそれらを試行する場を作ることに戦略特区制度を活用する、という姿勢で描かれている。「旧型のスマートシティ」を特徴づける「産業主導」、「技術指向」のモデルから脱していない。初期のスマートシティの理解でエネルギー偏重型からICT偏重型に移行したに過ぎず、今日的なものへの進歩とは認め難い。”と厳しく現状を批判しています。

私の知る限り参考にするべきケースは、徳島県の神山町のIT企業誘致による地域振興のプロジェクトですが、そこには、

“NPO法人グリーンバレーを27年間に亘り牽引してきた理事長（2017年に退任）の大南信也の働き無しには現在の神山町は無かったであろう。”という市民の熱意が必須の成功要件です。

そして筆者の主張は、

“スマートシティは都市という構造物のあり様や姿ではなく、常に変化をもたらすエコシステム（生態系）であるという点にある。そしてオープンイノベーションにおける「クアドルプルヘルックス」の実現こそが、スマートシティモデルによる超スマート社会の実現のカギである、という点が本書の主旨である。”です。

#### ◆俯瞰サロン◆

5月度に開催予定の第66回俯瞰サロンは、現在、計画中です。決まり次第、ホームページにてご案内申し上げます。

俯瞰サロン：<https://www.fukan.jp/俯瞰サロン/>

#### ◆俯瞰のクッキング “山菜の季節” ◆

この季節は山菜の季節です。たらの芽、ヤマウド、フキ、ワラビはよく知られて東京でも店で見かけますが、コゴミ、コシアブラ、姫ウコギなどは、山あいの町では売っています。山菜は新芽ですから何か命をもらう感じもします。

ワラビはアク抜きが厄介です。他はさっと湯がけばアク抜けます。少量でもかなりのアクが出ます。その後お浸しにしたり、味噌汁に入れたりしますが、お浸しが山菜の風

味を味わうには一番いいかもしれません。他の何かと混ぜて、かき揚げもおいしいです。

お浸しの変形として、ホワイトバルサミコとオリーブ油をかけて食べてみましたらおいしかったです。ホワイトバルサミコはあまり一般的ではありませんが、いわゆる濃厚な色が付いたバルサミコと違って透明ですから、色々なものにかけて楽しめます。例えばスモークサーモンによくかけて食べます。一ランク上の美味しさになります。

たらの芽は天ぷらが有名ですが、オリーブ油やバターで焼いて塩胡椒で食してもおいしいです。コゴミはさっと茹でてそのまま食べるとおいしいです。

昔の人は畑の野菜がまだない春に山に分け入り、野菜の代用として食してきたのでしょう。私は、直接山に入る力も気力もありませんから、お店で買います。

#### ◆俯瞰の書棚“世界を変えた地図グーグルマップ誕生の軌跡” ◆

今回は「世界を変えた地図グーグルマップ誕生の軌跡」ビル・キルデイ、大熊希美（訳） TAC 出版 2018 です。

グーグルマップの生みの親ジョン・ハンケの学生時代からの友人で、今も同僚のビル・キルデイがその人生のドラマを描いたものです。読んでみると、しばしばドラマを見ているような錯覚に陥る文体です。彼にとってジョン・ハンケとの学生時代の出会いが彼の人生を決めました。

そのドラマは、現在の世界をいわば牛耳っている GAF A が胎動を始めた 1990 年から 2010 年までのシリコンバレーの物語です。著者は日本的に言えば文系ですから、技術的な語りがほとんどありません。本人も書いていますが、先端的な技術に対する洞察力はなかったようです。マーケティングの人です。ですからベンチャーという社会の人間模様を描いています。買収や統合の中で才能ある人々が繰りなす、確執や協調が生々しく描かれています。テクノロジーについてはいろいろな資料がありますが、ベンチャーという組織の中の人間模様はあまり窺い知ることができませんでした。内部の人間しか知り得ない興味深い情報です。

この本を読む前に、下記の年表を頭に入れておいた方がいいでしょう。この時代に GAF A が支配する「現在」が作られた時代です。インターネットが立ち上がり、鋭い洞察力を持ったエンジニアが新しい時代を切り拓いていった時代です。



残念ながら日本はバブル崩壊ということもあって「選択と集中」という縮み志向の中でこの歴史的な大波を逃してしまい、世界経済の中で存在感を失ってしまった時代でもあります。また日本の製造業があまりにもハードウェアに拘泥して、この大波の本質を理解する洞察力がありませんでした。日本にも沢山いた優秀なエンジニアは、大企業の官僚的組織の中で才能をそがれて、感性も失われた時代です。リストラの結果、中国や韓国そしてアジアに、意にそぐわない技術移転をすることになりました。

- 1990 CERN のティム・バーナーズ・リーWWW を実装
- 1993 NCSA のマーク・アンドリーセン Mosaic を開発・リリース  
ジェン・スンが NVDA を設立 (人工知能、自動運転)
- 1994 Amazon 設立
- 1995 インターネットの商業化  
マイクロソフト社が Windows '95 を発売
- 1998 Google 設立  
テンセント設立
- 1999 アリババ設立
- 2000 スティーブ・ジョブズが Apple の CEO に復帰する
- 2001 ジョン・ハンケ Keyhole 社 設立 (Google Earth Map)
- 2003 テスラモーターズ設立
- 2004 Google Keyhole 社を買収  
Facebook 設立
- 2005 Google Map サービス開始
- 2006 Amazon AWS 開始 クラウドコンピューティング
- 2007 iPhone 発売  
ストリートビュー 公開
- 2008 Airbnb サイト開設
- 2009 Uber 設立  
Google が自動運転車の公道実験開始
- 2010 DeepMind 設立 (深層学習 2014 年 Google 買収)  
ジョン・ハンケが Google の社内ベンチャーとして Niantic Labs 設立
- 2012 ヒント教授のトロント大学のチームがディープラーニングで人間を超えた
- 2015 Google の全自動運転車が公道走行  
Niantic, Inc. 設立 (Pokémon GO)
- 2016 Pokémon GO 公開
- 2017 Google の AlphaGo が世界トップ棋士に勝利 (DeepMind)

ジョン・ハンケは、「パワーズ オブ テン」という IBM の資金援助で作られた短い映像を見て刺激を受け、会社を立ち上げたようです。私は 30 数年前に見ましたが、強烈な刺激を受けました。当時は IBM の天城にある顧客研修施設でよく使っていました。一見の価値はあります。（下記 URL）

資金難に苦しみ、社員の給料を半分にし、友人から借金するようして資金を調達したジョン・ハンケの Keyhole, Inc は、ちょうど上場が決まった Google から買収のオファーを受け、安定した開発環境を手に入れました。その時の社員が 29 名です。訴訟を抱えていたため買収処理に時間がかかり、上場前の Google の株を入手するチャンスを逃した場面では、人生における運というものを感じさせました。

その時の Google のプレス発表です。

「Keyhole は人工衛星や航空機などで撮影された画像と共に、道路地図情報、建物や企業情報など、さまざまな情報を組み合わせた合計 12 テラバイト以上にもものぼるデータベースを保有している。同社ではこのデータベースを閲覧するためのソフトウェアを開発し、地球を上から眺めているようなリアルな画像を表示するソフトウェアを提供している。これによって宇宙から一気に道路までズームインしてホテルの駐車場の場所を確かめるなど、地図情報の扱い方を一変させる技術を保有している。」

この時は、Google がこの会社をどうしようとしているか誰もわからず、買収された人々も Google がなぜ自分たちの会社を買収したのか、どうしようとしているのかも理解できなかったようです。そして比較的初期のミーティングで、グーグル創業者のラリー・ページが、ビジネスプランの提案に対し「君たちは、それよりもっと物事を大きく考えた方がいい」と言ったことがだんだんわかってきます。全く考えているスケール感が違います。

いろいろな逸話が盛り込まれていますが、ストリートビューが開発された経緯が興味深いので紹介しましょう。

いま人工知能で最前線を走っている NVDA の創業者のジェン・スンが、“「ストリートレベル（通行人目線）までズームインできるようにし、プロシージャル（3D グラフィックスで作成）にすることを考えていますか？」とジョン・ハンケに聞いた。ジョン・ハンケは「いつの日か、ストリートレベルまでズームインした画像の地図とリアルな 3D 建築物を表示する地図とを切り替え、そこを実際歩くように移動する体験は作れるだろう」と言った。”

技術的な補足をしますと、ジェン・スンはゲームとコンピュータグラフィックスの人ですから、街の景色はコンピュータグラフィックスで作る話をしています。一方ジョン・ハンケは地図の人ですから、現地に行って撮影することを考えています。彼は物理的な世界とデジタルの世界を一体として認識できる「デジタルツイン」の人です。

またラリー・ページは独自に事を進めていました。それはストリートレベルで街の様子を撮影するというもので、ページがスタンフォード大学のコンピュータサイエンスの教授、マーク・レボイと個人的に始めていました。自ら国道 101 をドライブして動画を撮り、それを編集して人に見せています。彼は世界中のすべての情報を整理するというビジョンを掲げていますが、目の前の街並みという物理的な世界もその中に取り込もうとしていたのです。彼もまた「デジタルツイン」の人です。

“ストリートビューは 2002 年にラリー、マリッサ、セルゲイがドライブしたあの土曜日の実験から始まった。それはグーグルストリートビューの画像からコンピュータビジョンの技術で交通データを抽出し、全世界の交通網の情報を書き出すプロジェクトだった。” ストリートビューの画像からコンピュータビジョンの技術で交通データを抽出これがイノベーションです。自動運転のマシンビジョンの技術とデジタル地図の技術を融合させています。

この 3 人はスタンフォード大学出身のエリートで、Google の中核を構成している人脈でもあります。マリッサは相当のやり手で社内に敵が多くてジョン・ハンケのグループと社内政治で争っていました。

当時の Google の社内の雰囲気、エンジニアの価値観がわかるいくつかのフレーズを紹介しましょう。

“グーグルとのミーティングにいくつか参加したが、そのどれにおいても価格や営業、売上見込みについての話題が出てこないことに驚いていた。お金の話はほとんどしないか、稀に話される程度だった”

“グーグル社員の多くは、プロダクトの利用料を得るという概念に馴染みがなく、そもそも多くのチームは売上を重要視していなかった。グーグルはユーザのためになるプロダクトを作ること、そしてテクノロジーで世界を変えることだけに興味があった。”

またシリコンバレーの住宅事情も知ることができます。

“私からすると、国道 101 号沿いの住宅には序列があるように見えた。単身の社員はサンノゼかサンタクララに住む。マネージャークラスはサニーバールやマウンテンビュー

一。ディレクターはパロアルトにメンローパーク。バイスプレジデントや CEO はアサートンやウッドサイドだ。”

また、“彼女は、生まれて2ヶ月半の娘ギャビーをオフィスに連れてきてもいいという条件で、Keyholeでのパートタイムの仕事を引き受けた。”と自由闊達なオフィスだったようです。

そしてGAFAの世界の基盤となったデバイスが登場します。

“2007年1月9日、スティーブ・ジョブズがモスコニー・センターのステージに立ち、革新的なプロダクトを発表した。この時、Geegleの社員も初めてiPhoneを目にしたのだった。iPhoneが発売されてから18ヵ月で、すべてのコンピュータやモバイルを足し合わせた数より、たった1種類のデバイスからの（Googleの）利用数の方が上回っていたのだ。”

当時のシリコンバレーは、数多くベンチャー企業が生まれそして潰れていった時代ですが、そのために才能あるエンジニアが離合集散を繰り返し、それぞれの才能を補完しながらイノベーションを興していった様子が生々しく語られています。かつて同じ企業で働いた関係、社内での新しい関係、そして協創と競合と確執の人間関係とチームがイノベーションを興していきます。Googleのサービスが沢山の才能を持ち寄った結果であることがよくわかりました。グーグルマップで現在位置を示す青丸のマークもオープンイノベーションの結果です。

著者は次のような出会いもありました。

“私は度々グーグラーのサンダー・ピチャイと一緒にになった。彼はグーグルツールバーとグーグルデスクトップのプロダクトマネージャーで、マリッサに報告していた。この時点で、彼はディレクターですらなかった。（サンダー・ピチャイは2015年にグーグルのCEOに就任している）。

あの“Uber、その他何百ものサービスの経済合理性が適うようになったのは、ベースとなる地図を作るという重労働を、どこかの会社が肩代わりしたからだ。”と、Uberもグーグルマップなしではありえないし、アメリカ経済の成長に大きな貢献をした事は違いありません。

本書の中には数多くの参考になるフレーズがあります。

「完璧を追い求めて前進する速度を落としてはならない」真面目な日本人が陥りやすいことかもしれません

「考え方を考える必要がある」本書では常識で構想を小さくするな、です  
450 ページ以上ありますが、ご一読おすすめします。1 時間に数十ページの感じで読み  
ましたが、ここまでいくと、読書も格闘技になります。Kindle のおかげです。

パワーズ オブ テン

<https://www.youtube.com/watch?v=paCGES4xpro>

◆雑感・私感◆

以上も雑感・私感ですが、できる限り参照データを紹介しています。個人のブログは  
面白いですが、個人的な偏りがありますから、できるだけメジャーなメディアを引用し  
ています。

- ヨーロッパ、EU が変調をきたしています。火薬庫のバルカンのコソボとセルビアの  
争いも収まっていません。独仏がこれを捌けるか。
- イラン情勢はかなりリスクが高い状態です。石油輸出をさせないというアメリカの  
制裁に、イランは何らかの反撃が必要です。イランがホルムズ海峡の封鎖に動けば、戦  
争です。既にアメリカは空母を中東に派遣しています。
- 北朝鮮は現状に悩み狂っているのでしょうか。ロシアのプーチン大統領にすがって  
いますが、支援も限られています。制裁を強化して非核化に導くしかありませんが。
- ある意味、日本の存在感が失われた平成の30年ですが、だれが令和の日本新生の  
ビジョンを早く国民に提示するのでしょうか。安倍政権以外の。新天皇ご夫妻かも。お  
言葉の文体が普通の日本語になりました。

-----  
◆内容・記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は下記まで  
webmaster@fukan.jp

-----  
◆俯瞰 MAIL88 号 (2019 年 5 月 6 日)

発行元：一般社団法人俯瞰工学研究所

発行人：松島克守

編集長：松島克守

配信人：石川公子

URL：<http://www.fukan.jp>

---